

2019年度 第2回 CPC研究会

日時：6月14日(金) 13:30~16:30

会場：化学会館 501 会議室

(〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5)

参加費：維持会員・大学官公庁関係＝無料 / 非会員＝20,000 円

<http://cpc-society.org/>

13:30~14:55

「プレス機を用いた複合材料成形の現状と将来」

株式会社郷製作所 郷 純一 氏

- 1) 会社説明
- 2) 複合材料の各種成形方法について
- 3) プレス成形の特長
- 4) 弊社システムの説明
- 5) 周辺機器の説明
- 6) GMS プレス成形用複合材料基材の選定
- 7) 今後の展望

熱可塑性(CFRTP)並びに熱硬化性(CFRP)複合材料のプレス成形を様々な角度から検証し、最適な材料選定、製品設計、金型製作、成形方法を解説します。複合材料プレス成形におけるプレス機の選定・使い方や周辺機器とのマッチングなど自社開発した成形システムも交えて説明します。マルチマテリアル化に向けての今後の展望をお話させていただきます。

15:05~16:30

「炭素被覆ナノポーラスセラミックスのナノ多孔性電極としての応用」

東北大学 干川 康人 氏

- 1) 炭素被覆アルミニウム陽極酸化膜(CAAO 膜)の特長
- 2) CAAO 膜を用いたバイオ燃料電池の作製
- 3) 酵素の配向制御によるバイオ電極の性能向上
- 4) Si ラジカルを利用したメソポーラスシリカ表面の均一炭素被覆
- 5) 窒素ドーピング炭素被覆メソポーラスシリカの電気化学特性評価
- 6) ナノポーラスガラスを利用したカーボンモノリス電極の作製

セラミックスナノ多孔体にナノ炭素膜を被覆すると、その構造特性を活かしたまま“ナノ多孔性炭素材料”に変えることができ、既存の炭素材料にはできない応用や解析が可能になります。本講演では、アルミニウム陽極酸化膜やメソポーラスシリカを CVD 法で炭素被覆することで、ナノ多孔性電極としてバイオ電極などに応用した研究について紹介します。

CPC 研究会 講演会事務局 行 e-mail: sec@cpc-society.org または FAX: 029-861-8963

6月14日の第2回研究会に出席します(化学会館 501 会議室)

お名前:

維持会員 非会員 大学関係

ご所属:

Tel:

Fax:

E-mail:

交通案内

公益社団法人 日本化学会 化学会館
所在地 〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5

<http://www.chemistry.or.jp/access/index.html>

- JR 中央線・総武線 「御茶ノ水」駅 御茶ノ水橋口 徒歩 3 分
- 地下鉄丸の内線 「御茶ノ水」駅 出口 2 徒歩 4 分
- 地下鉄千代田線 「新御茶ノ水」駅 出口 B1 徒歩 5 分

